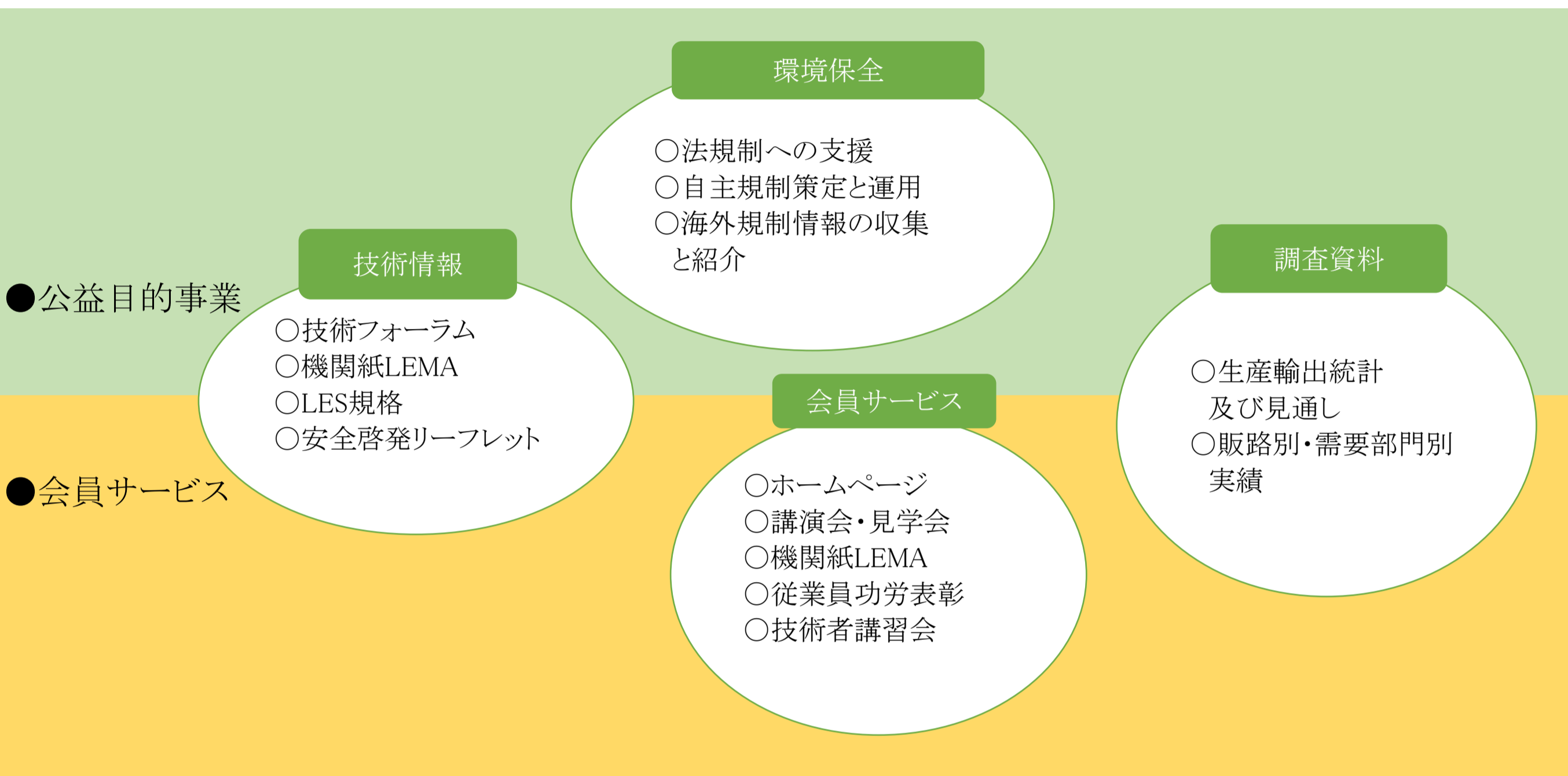


□沿革

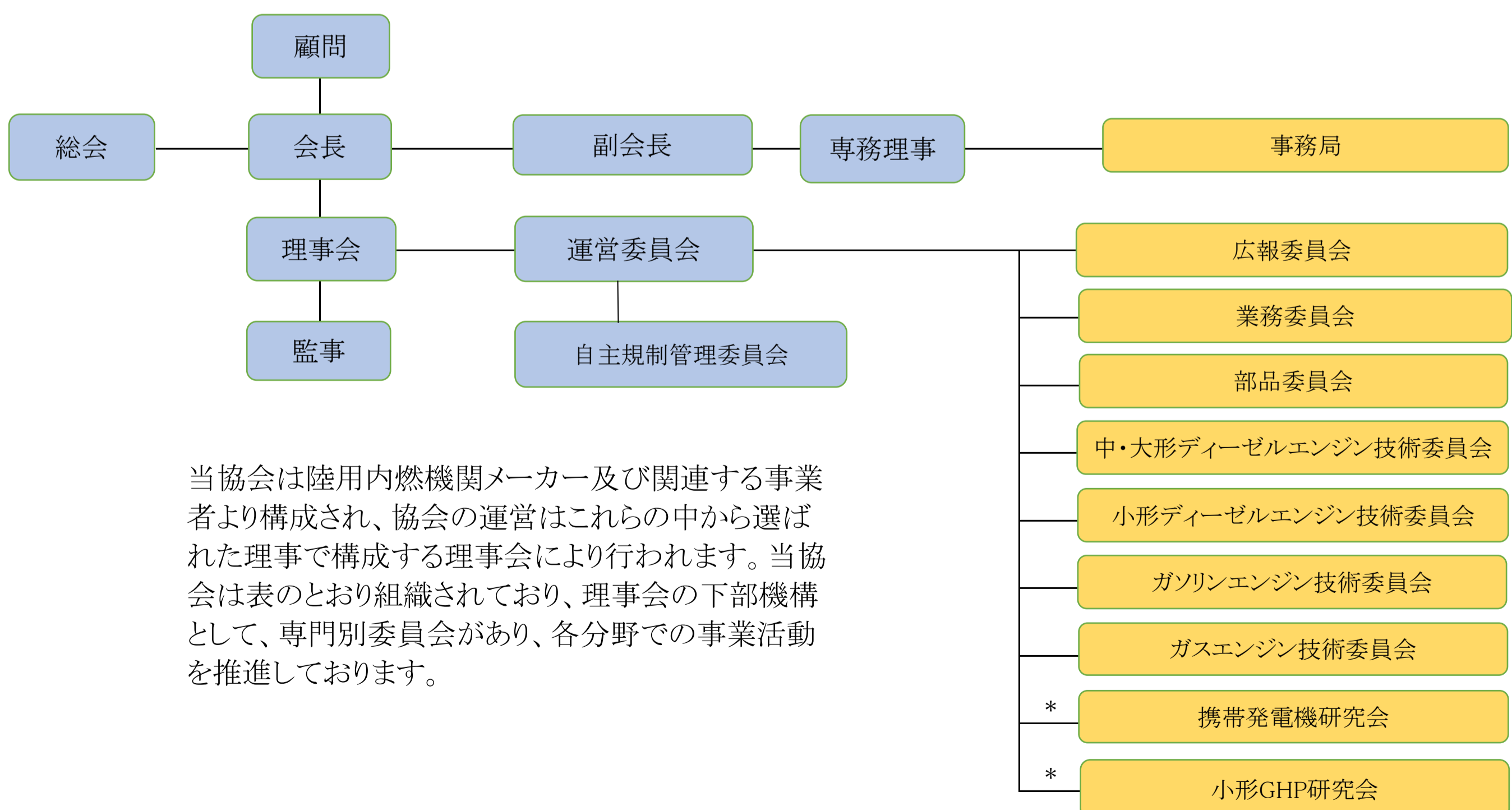
当協会は、1948年(昭和23年)5月1日、自動車、鉄道車両を除く陸用エンジンのメーカーを主体に関連の部品メーカーと共に、業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、合わせて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的として、会員組織の「陸用内燃機関協会」として設立されました。そして、1965年(昭和40年)11月には、それまでの活動成果が認められて、社団法人としての認可を受けました。更に、国内だけでなく、米国、欧州、中国を含む国際的な活動に、わが国を代表する製造事業者団体として参加しています。1999年2月に名称を「社団法人 陸用内燃機関協会」から「社団法人 日本陸用内燃機関協会」へと変更、更に2012年4月、国の新公益法人制度にのっとり、「一般社団法人 日本陸用内燃機関協会」として再編し、今日に至っております。

□主な事業

本会は、陸用内燃機関に関する生産、需要、貿易、流通及び技術の調査研究等を通じ、陸用内燃機関産業の技術の発展、向上と環境の保全を図り、もって我が国経済の発展と国民生活の向上に寄与するとともに広く世界に貢献することを目的としております。



□組織



当協会は陸用内燃機関メーカー及び関連する事業者より構成され、協会の運営はこれらの中から選ばれた理事で構成する理事会により行われます。当協会は表のとおり組織されており、理事会の下部機構として、専門別委員会があり、各分野での事業活動を推進しております。

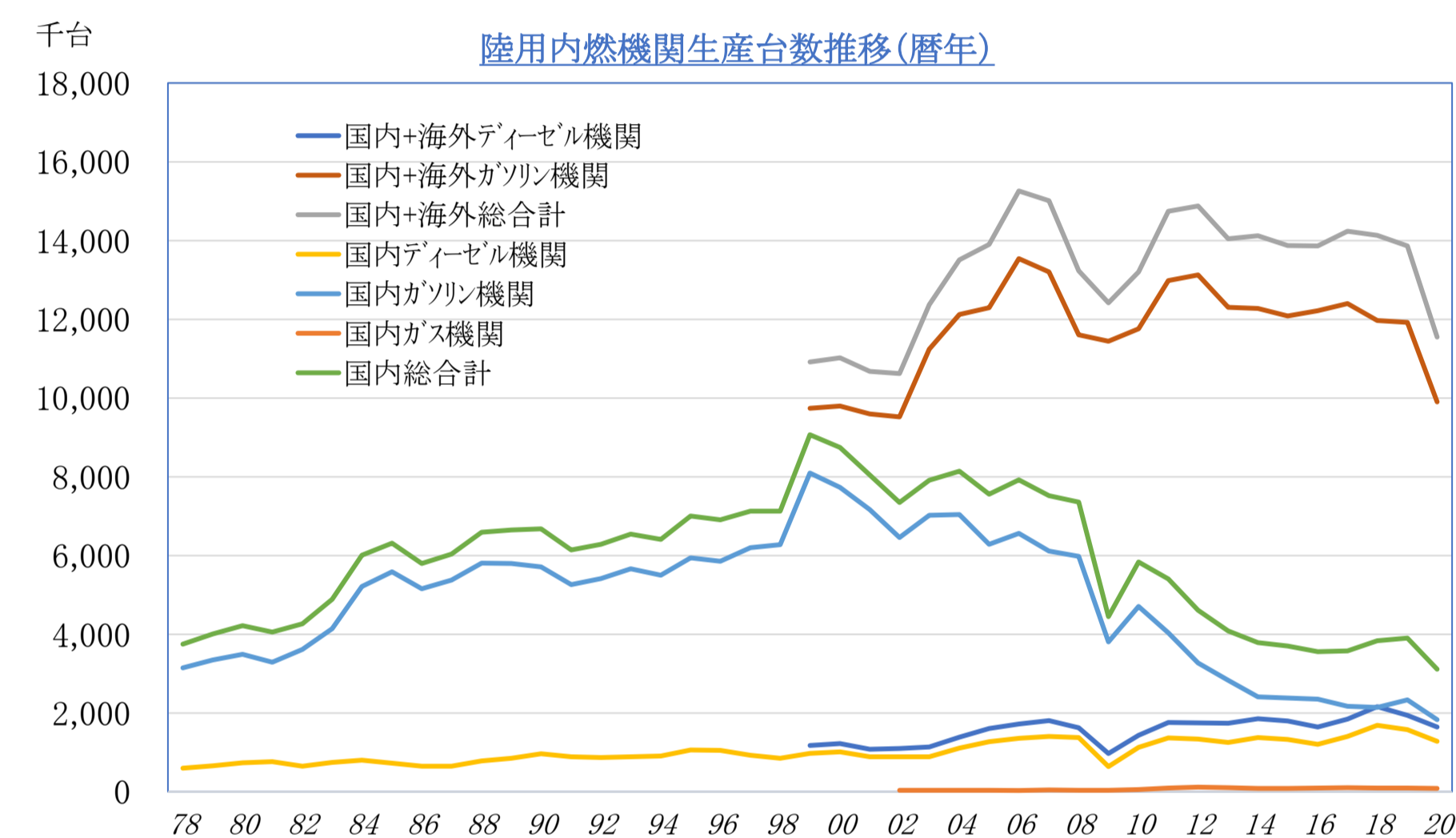
*印の委員会は特別に設置された委員会

□2021年度 主な行事と活動

4月 生産・輸出当初見通し、自主規制実績、機関紙LEMA	10月 技術フォーラム、理事会、生産・輸出中間見通し、機関紙LEMA
5月 理事会、通常総会	11月 臨時総会
6月	12月
7月 機関紙LEMA、販路別・需要部門別統計	1月 賀詞交歓会、機関紙LEMA、技術者講習会②
8月	2月 講演会
9月 理事会、技術者講習会①、従業員功労表彰	3月 理事会

□業界の動向

技術の進歩と市場規模の拡大にささえられ、会員各社の生産するエンジンは0.5馬力級の空冷ガソリンエンジンから10,000馬力級の水冷ディーゼルエンジンに至るまで広範囲にわたっており、生産量も逐次増加しており、2006年には国内生産台数795万台、海外生産を含めると1,529万台となりました。その後、米国の金融危機により2009年には1,246万台と一旦大きく減少しましたが、2010年から回復の兆しが見えはじめ、2012年には1,500万台まで回復。その後は多少の増減はあるものの1,400万台で推移しておりました。しかし2020年は新型コロナウイルスの影響もあり、1,163万台と大きく落ち込んでいます。これらのエンジンは農林機械、建設機械、運搬荷役機械、発電機、産業機械等に搭載され、国内外で多くの人々に使用され高い評価を受けております。



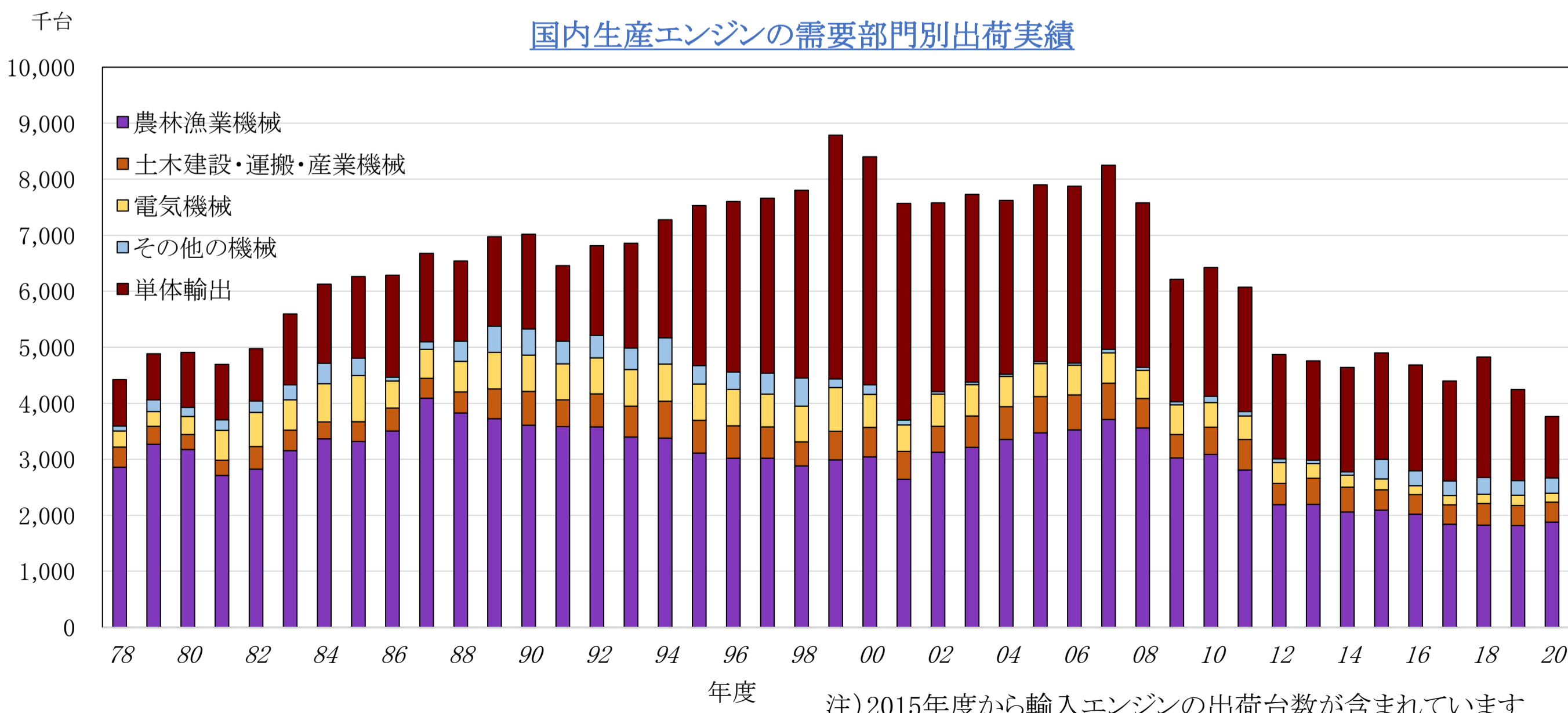
調査開始以降、第1次石油危機直後の1975年を除いて1990年まで一貫して長期成長のトレンドを歩んできました。1990年代には国内市場が成熟化し、輸出中心の海外需要開拓局面に入り、ガソリンエンジンについて2000年以降海外生産が増加し、国内生産は減少しています。2009年から総海外生産台数が国内生産を上回るようになりました。直近の2020年には、海外生産比率は72%となり、中でもガソリンエンジンは82%が海外生産となっています。

なお、2003年より海外生産台数を含めた生産台数をグラフに表示しています。

※海外生産分の集計を開始した99年以降、KD分は国内生産分より除外しております。

一用途一

産業の各分野で陸用内燃機関がどのように使われ活躍しているか、幾つかの例をご紹介します。これらのエンジンは、ガソリン、灯油、軽油、ガス、LPG等の燃料を使用しています。



注) 2015年度から輸入エンジンの出荷台数が含まれています

一機械に搭載されるエンジンの種類一

用途	主な機械	エンジンの種類			
		ガソリンエンジン		ディーゼルエンジン	ガスエンジン
		2ストローク	4ストローク		
農林漁業機械	刈払機・チェーンソー・背負動力散布機	○	○		
	田植機		○		
	歩行形トラクタ・管理作業機・動噴	○	○	○	○
	バインダ・コンバイン		○	○	
	乗用形トラクタトラクタ		○	○	
土木建設・運搬荷役・産業機械	ランマ	○	○	○	
	プレートコンパクタ・振動ローラ				
	コンクリートカッタ	○	○	○	
	コンプレッサ				
	ブルドーザー・パワー（油圧）ショベル アスファルトフィニッシャ・運搬機		○	○	
	水ポンプ	○	○	○	
	除雪機	○	○	○	
電気機械	フォークリフト		○	○	○
	除雪車・軌道保線車				
	携帯発電機・エンジンウエルダ	○	○	○	○
その他レジャー機器等	可搬式発電機		○	○	○
	定置式発電機・コジェネレーション			○	○
	芝刈り機・ゴルフカー・ゴーカート	○	○		
	遊園地乗物				
	スノーモービル	○	○		
	GHP（ガスヒートポンプ）				○

注)陸用エンジンが搭載されている一般的な機械の用途と作業機械名を記載しておりますが、用途区分に関しましては統計区分(経済産業省の区分または当協会の区分)と異なる作業機械がありますのでご了承ください。

□会員リスト(50音順)

●正会員(46社)

- | | | |
|---|---|--|
| 株IHI原動機
株アイシン
飯田電機工業(株)
いすゞ自動車(株)
井関農機(株)
臼井国際産業(株)
ウッドワード・ジャパン(同)
エヌ・イー ケムキャット(株)
株小野測器
川崎重工業(株)
キャタピラー・ジャパン(同)
株クボタ
株工研社
株小松製作所
澤藤電機(株)
JFEエンジニアリング(株) | スターテング工業(株)
株スチール
大同メタル工業(株)
ダイハツディーゼル(株)
TPR(株)
株ティラド
テネコジャパン(株)
株デンソー
東京濾器(株)
トーハツ(株)
株豊田自動織機
日本ガイシ(株)
日本特殊陶業(株)
日本ピストンリング(株)
ハスクバーナ・ゼノア(株)
パーソルプロフェッショナルアウトソーシング(株) | パナソニック(株)
株堀場製作所
本田技研工業(株)
ボッシュ(株)
株マキタ
株丸山製作所
マン・ウント・フンメル・ジャパン(株)
三菱重工エンジン&ターボチャージャ(株)
ヤマハモーターパワープロダクツ(株)
株やまびこ
ヤンマーホールディングス(株)
ユミコア日本触媒(株)
株リケン
株ワイ・ジー・ケー |
|---|---|--|

●賛助会員(13社2団体)

- | | |
|---|--|
| 株ウッズ
カミンズジャパン(株)
株コスモス・コーポレーション
サクラ工業(株)
スカニアジャパン(株)
株ダイシン
デンヨー(株)
日本キャタピラー(同) | フォルシア・ジャパン(株)
フジオーゼックス(株)
北越工業(株)
UDTラックス(株)
ユニオンマシナリ(株)
(一財)コジェネレーション・エネルギー高度利用センター
(一社)日本内燃力発電設備協会 |
|---|--|

詳しくはホームページをご覧ください。

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-2-31 TEL:03-3260-9101 FAX:03-3260-7965

www.lema.or.jp

陸内協 検索





陸内協の概要

一般社団法人 日本陸用内燃機関協会
Japan Land Engine Manufacturers Association

陸内協は広く陸用に使用されているエンジンを作るメーカーの団体です。

豊かで快適な生活を



(一社) 日本陸用内燃機関協会は小形汎用エンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。このラベルは当協会が定めた小形汎用エンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。